

フィリピン保健医療支援事業

活動期間:2009年7月23日～2010年1月20日

報告者:西村尚美

フィリピンでは、都市部と農村地域との生活の違いを目の当たりにしました。マニラなどの都市部とは異なり、派遣先の農村部の住民は病院や医療スタッフが非常に少なく、土地や金銭的な問題からも保健医療サービスが受けにくいこと、環境的な問題から下痢や呼吸器の感染症に罹るリスクがとて高いという現状がありました。

そんな中、対象地域ではトレーニングを受けてきたボランティアの人たちが、健康のための知識と技術を身に付け始めていました。そこで、私が基礎保健活動を支援するに先立って留意した点は、ボランティアや村の人たちの意識と活動の方法がどの段階にあるのかを明確にすることでした。そして村の住民がさらに健康への意識を持ち、病気を予防できるように健康教育を村人とともに進め、同時に住民が地域保健計画の策定・実施に参加する場所を創っていききました。

活動を通して気付いたことは、村の人たちはその地域の事情について熟知していることと、貧しい中でも村を良くするために積極的であるということでした。少しのきっかけと支援でその村の健康状態が向上するとしたら、現地の現状と住民の様子を日本に向けて伝えていくことも自分の役割として重要だと感じました。

また、派遣期間中の9月に台風災害が起こり、約500万人の人が被害に遭われました。急遽被災地入りし、地元スタッフおよび他国赤十字社スタッフとともに救援活動に参加しました。避難所では、診療の補助、衛生教育、救援物資の配布を行いました。現場では不衛生な環境の中、避難所生活による身体の不調や、今後の生活を考えて頭痛や不眠を訴える声を多く聞きました。それでも私たちに笑顔で「ありがとう」と答えてくれる被災者の方に逆に元気を頂いたことを覚えています。人は人との関わりの中で生きていくのだと感じました。

今回の派遣を通して、地元のニーズを見極めること、環境や生活に密着した保健事業の必要性など多くの学びと課題がありました。臨床の場でも今回の学びを忘れず、人との関わりを大切にしていきたいと思えます。

